

**製品名: Nrf2 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab14893**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	75-100kDa

**抗原情報**

遺伝子名	NFE2L2
別名	NFE2L2; NRF2; Nuclear factor erythroid 2-related factor 2; NF-E2-related factor 2; NFE2-related factor 2; HEBP1; Nuclear factor; erythroid derived 2, like 2
遺伝子 ID	4780.0
SwissProt ID	Q16236
免疫原	抗血清はヒト NRF2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 556-605

**背景**

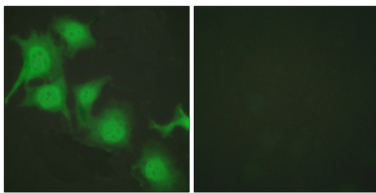
この遺伝子は、塩基性ロイシンジッパー（bZIP）タンパク質の小規模ファミリーに属する転写因子をコードしています。この転写因

子は、プロモーター領域に抗酸化応答エレメント (ARE) を含む遺伝子を制御します。これらの遺伝子の多くは、フリーラジカルの生成を含む損傷や炎症への応答に関与するタンパク質をコードしています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが特徴付けられています。[RefSeq 提供、2015年9月]、ドメイン: N末端に酸性活性化ドメイン、C末端にDNA結合ドメイン。機能: 標的遺伝子のプロモーター領域にある抗酸化応答エレメント (ARE) に結合する転写活性化因子。酸化ストレスに応答する遺伝子の協調的な上方制御に重要です。βグロビン遺伝子座制御領域の過敏部位 2 のエンハンサー活性を媒介することにより、βグロビンクラスターの遺伝子の転写活性化に関与している可能性があります。PTM:酸化ストレスに応答した PKC による Ser-40 のリン酸化により、NFE2L2 は細胞質阻害因子 KEAP1 から解離し、核への移行が促進されます。類似性:bZIP ファミリーに属します。類似性:bZIP ファミリーに属します。CNC サブファミリーです。類似性:1つの bZIP ドメインを含みます。細胞内局在:ストレスのない状態では細胞質に存在し、求電子剤による誘導により核に移行します。サブユニット:ヘテロ二量体。未知のタンパク質と DNA を結合する可能性があります。KEAP1 と相互作用します。成人の筋肉、腎臓、肺、肝臓、胎児の筋肉で最も高い発現を示します。

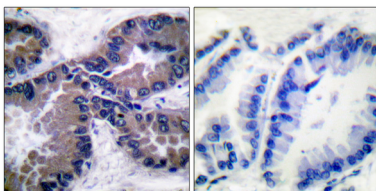
## 研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達

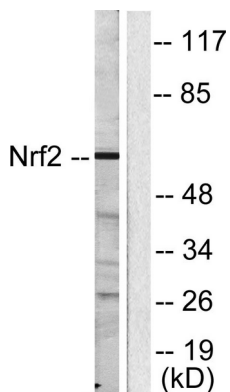
## 画像データ



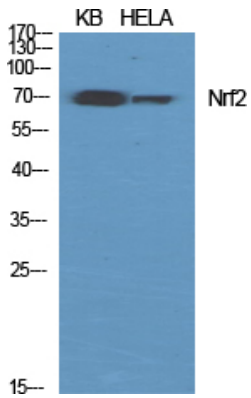
Nrf2 抗体を用いた HUVEC 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



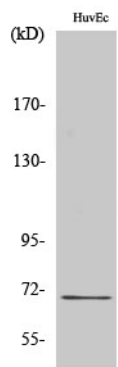
Nrf2 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。



Nrf2 抗体を用いた HUVEC 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 1000 に希釈した Nrf2 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析



1: 1000 希釈の Nrf2 ポリクローナル抗体を用いた HuvEc 細胞のウェスタンブロット解析